

## 2024年5月12日（日）第二礼拝「レビの回心」マルコ2章13～17節

「回心」という言葉は、「ひっくり返す、神に立ち返る」という意味です。パウロはかつて聖徒たちを殺すことに全力を尽くした人でしたが、イエス様と出会って人生は逆転し、今度はイエス様を伝える人になりました。このように心が180度変わることが回心です。

第一番目、主が呼ばれることから始まります。主が永遠の昔から人を選び、その人を呼びます。イエス様が「わたしについて来なさい。」と言ってレビを呼ばれた時、彼は立ち上がってついて行きました。このレビはマタイの福音書を書いたマタイです。レビという名前はレビ族という意味です。レビとは「主が私の相続地」という意味で、神殿で主に仕え、律法を教える働きをしていた人たちです。レビ族はイスラエルの十一部族が働いて捧げた十分の一で生活をしていました。しかし、このレビは収税所に座り、ローマの徴税請負人でした。ローマがレビの相続地、割り当て地だったのです。そのため、ユダヤ人たちから売国奴として憎まれていました。当時、罪の代名詞と言うと取税人と罪人(遊女)でした。パリサイ派の律法学者たちは、イエス様が取税人たちや罪人たちと一緒に食事をしておられるのを見て非難しました。彼らはイエス様を罪人と同等に見なしたのです。律法は神様の御言葉であり、律法の目的は罪人としての自覚を与えることです。律法を守っていると自負していたパリサイ人たちは罪人を見下し高ぶっていましたが、レビは自分の罪を悟っていました。イエス様は律法学者たちではなく罪人である取税人のレビを呼びました。そしてイエス様に呼ばれたレビは立ち上がりました。この「立ち上がる(アナスタス)」は「よみがえり」を意味します。レビは罪の泥沼から立ち上がることができたのです。

第二番目、回心を通して新しく造られた者になります。神様は御言葉で天と地を創造されました。イエス様の「わたしについて来なさい。」という御言葉がレビの内に入り、レビは造り変えられ、主と共に歩む者とされました。「わたしはわたしの律法を彼らの中に起き、彼らの心にこれを書きしるす。」(エレミヤ31:33) 神様の律法が私たちの中に入る時、聖霊の直観をいただき、御言葉に聞き従う者へと変えられるのです。イエス様によって呼ばれた者は神の子どもです。イエス様は私たちをこの世から連れ出し天国に導かれます。自分を義人とする者ではなく、自分を罪深い者と認める人たちを救うためにイエス様は来られました。「わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」(マルコ2:17)

第三番目、回心後の変化です。レビは長い間イエス様から学び、マタイの福音書を書きました。神様は成長の過程として私たちが失敗から学ぶことも許されます。失敗から学ぶものは赦しであり憐みです。ペテロも三度イエス様を否認しました。それを通して赦しを学びました。赦しや憐みこそ律法の完成なのです。回心したレビは自分の家にイエス様や弟子たち、取税人仲間や罪人を大勢招きました。そして彼はイエス様に聞き従い、福音を伝える者となったのです。同様に、神の子どもとされた私たちもまた神様に感謝し、自分の家に友人知人を招いて伝道していく者となっていきましょう。アーメン！